

専門店を支える女性の会

1月29日、田中興産株式会社の会議室にて「チームU拡大版」を開催。読売新聞東京本社編集委員の宮智泉様をお迎えした講演会では働く女性を元気づける大変貴重なお話を伺いました。

「楽しく仕事をするー自分らしく生きる」

読売新聞東京本社編集委員 宮智 泉さん

1985年男女雇用機会均等法施行の前年に入社。新聞社は、女性は男性の3倍働かないと認められない、まさに男性中心の組織でした。国際部の特派員希望で入社しましたが、配属された部署は自分のもともとの希望とは違う生活面の担当部署でした。ただその中で自分なりに面白さを見つけ、今まで働き続けてこれられた知恵のようなものをお話してきました。

★大事にしてきたこと

生活者としての視点で、半歩先を行くことで気持ちがあります。そのためには好奇心をもって、フットワークをよくする。今は何でもネットで調べられます。ただその情報は果たして信頼できるものかどうか。自分の目で見て確かめること。いろいろ興味をもって店をたくさん見ていると、それぞれの店の違いや特徴が分かってきて自分の引き出しの中身



が増えてきます。部下に対してもよい面・悪い面、多角的に見えてくるようになります。

漫然と仕事をしないことも大切です。なんでも当たり前と思わないことです。何のためにやっているのか、仕事のやり方はこれでよいのかと角度を変えて考えることが必要です。マンネリにならないことですね。キャリアを積み積むほど難しい局面が出てきます。いろんな経験をたくさんすることです。嫌な思いもしてきましたが、経験を積まないと解決能力・判断能力

が身につきます。経験によって解決法を見い出せることがたくさんあるのです。仕事をしていると自分一人では解決できないことが多々あります。社内外に味方を持つ人のアドバイスはありがたいですね。ただこうした関係は一朝一夕ではできません。日頃からのコミュニケーションが大切。また自分と違う世界に友人・知人をもつこと。自分とは違う価値観を持つ人と出会うことで、多様な考え方を知り、認められるようになることは、自分にとって大変プラスになりました。

最後にお伝えしたいのは、**自分の強みは何かを知る**

〈プロフィール〉

85年読売新聞社に入社。水戸支局、地方部を経て89年に婦人部（生活情報部の前身）。06年、生活情報部次長。09年、カリフォルニア大学バークレー校ジャーナリズム大学院講師。その後、編集委員を経て12年生活部長、15年編集局次長。18年より現職。20年余り、生活面に携わる。ファッション、働く女性、食、家族の問題などを担当。

こと。自分は何をやりたいのか。何をすれば人と違うことができるのかを考えること。自分がやりたいことを明確化して自分を鍛える。組織にとって必要と思われるような人間になることです。

★これから求められること

それでは、これからのように仕事をしていけば、楽しく尚かつ自分らしく生きていけるのでしょうか。

五感をフル回転させることは、重要です。自分達の五感を大事にする。ネットで伝わらない味覚、嗅覚、触覚、視覚、聴覚を大切にしましょう。自分が体験していることが何より強いのです。香りは決してネットでは伝わりません。自分の感覚を研ぎ澄ませるのです。**イメージーション（想像力）を働かせる**ことも大事です。相手がどう思うかをいつも頭に入れておけばトラブルは起こりにくくなると思います。

独りよがりになるのは良くないですが、自分はどうやっていくのだという**ぶれない姿勢**は大切です。ぶれない店、トレンドではなく、スタイルを持っている店は楽しいです。そういう店では店員さんと話すのが楽しい。流行に左右されることなく、商品、その店の個性、働いている人たちがぶれない店は強いものです。

また、**女性のアイデアをもっと活用**してほしいと思います。女性が持っている感性、考え、しなやかさなどはもともと様々な形で生かせるはずなんです。そうすれば、お客様だけでなく、働いている人も面白がって仕事ができる。結果的に自分たちのためだけでなく会社にも良い結果をもたらすと思います。

皆さん、どうぞ頑張ってくださいね。

